



令和3年1月14日

住宅火災（ガスこんろ）にご注意を！！

令和2年中の火災発生状況（速報値）をみると、火災件数及び焼損床面積が減少した一方で、住宅火災は1,550件で昨年より7件増加し、特にガスこんろの火災が384件で昨年より63件増加しています。これは、緊急事態宣言による外出自粛などにより、自宅で調理する機会が増えたことが要因と推測されます。

再び緊急事態宣言が発出され、不要不急の外出自粛、特に20時以降は徹底した外出自粛を呼びかけていることから、自宅での調理機会の増加が予想されますので、引き続きガスこんろなど調理器具の取扱いに注意してください。

また、住宅火災の被害軽減には住宅用火災警報器の設置が有効です。

1 住宅火災発生状況の要因

住宅から出火した火災が増加した要因として、ガスこんろ火災の増加があります。

ガスこんろ火災は、外出自粛、テレワークの増加などにより在宅時間が長くなり、自宅のガスこんろの使用機会が増えたことによるものと推定されます。

また、今後、飲食店の営業時間短縮や休業により、さらに自宅における調理機会が増え、ガスこんろ火災の増加が予想されることから注意が必要です。

2 住宅での火災予防のポイント

(1) ガスこんろを使用する場合の注意点は、次のとおりです。

ア 調理中はガスこんろから離れないようにしましょう。

イ ガスこんろの周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。

ウ 防災製品のエプロンやアームカバーを使用しましょう。

エ 炎が鍋底からはみ出さないように調節しましょう。

オ 安全機能（Sセンサー）付きのガスこんろを使用しましょう。

カ ガスこんろの使用経験が少ない人は、取扱い方法をよく確認しましょう。

(2) 消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に非常に効果的です。火を使う場所には、消火器を備えましょう。

一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアソール式消火具もあります。

(3) 住宅用火災警報器は、火災予防条例により、全ての住宅に設置が義務化されています。火災の早期発見、通報、初期消火に有効ですので、適切に設置し、定期的に点検するとともに、設置後10年を目安に機器本体を交換しましょう。

3 令和2年中の火災発生状況（速報値）

別紙をご参照ください。

4 火災予防広報の実施

令和2年中の火災発生状況及び緊急事態宣言の発令を受け、渋谷消防署が渋谷区及び東京都と連携した広報活動を渋谷スクランブル交差点付近で実施します。詳しくは、令和3年1月13日発表の報道発表資料をご参照ください。

問合せ先

東京消防庁（代）	電話	3212-2111
予 防 部 調 査 課	内線	5066 5068
防 災 部 防 災 安 全 課	内線	4192 4195
広 報 課 報 道 係	内線	2345~2350

令和2年中の火災発生状況（速報値）

1 全火災の状況（表1、図1、表2参照）

- (1) 火災件数は3,688件で、一昨年と比べ401件減少（9.8%減）、焼損床面積は16,092㎡で、2,203㎡減少（12.0%減）しました。また、火災による死者は88人で20人減少（18.5%減）しました。
- (2) 主な出火原因は、1位が放火（疑い含む）の635件で昨年と比べ6件減少（0.9%減）、2位がたばこの506件で、183件減少（26.6%減）、3位がガスこんろの398件で、51件増加（14.7%増）となりました。

2 住宅火災の状況（表2、図2～4参照）

- (1) 住宅から出火した火災件数は1,550件で、7件増加（0.5%増）しています。
- (2) 住宅から出火した火災の主な出火原因は、1位がガスこんろの384件で、63件増加（19.6%増）、2位がたばこの201件で78件減少（28.0%減）、3位が放火（疑い含む）の144件で18件増加（14.3%増）となりました。
- (3) 住宅のガスこんろの火災件数を月別にみると、令和2年の緊急事態宣言期間中に増加したほか、年末にかけても増加しています。

3 令和3年の火災状況

令和3年に入り（令和3年1月1日から同月13日まで）の火災件数は177件で昨年同時期と比較し15件増加（9.3%増）しています。また、火災による死者は7人で3人増加（75.0%増）しています。

年始から火災件数が増加傾向にありますので、火気の手配にご注意ください。

表 1 令和 2 年中の火災状況

年 別	火災件数										死者 (自損含む)	焼損床面積 (㎡)
	合計	建物火災					林野	車両	船舶	その他		
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
2019年 (令和元年)	4,089	2,904	81	83	455	2,285	5	206	1	969	108	18,295
2020年 (令和2年)	3,688	2,667	62	74	403	2,128	1	216	-	803	88	16,092
増減	▼401	▼237	▼19	▼9	▼52	▼157	▼4	10	▼1	▼166	▼20	▼2,203
5年平均	4,136	2,825	78	86	462	2,199	3	244	2	1,060	90	19,179
5年平均比	▼448	▼158	▼16	▼12	▼59	▼71	▼2	▼28	▼2	▼257	▼2	▼3,087

注 1 治外法権火災及び管外からの延焼火災は、火災件数の合計のみ計上し、他の項目から除いています。

2 表中の符号「-」は0、増減欄の「▼」は減少を示しています。

3 5年平均は、2015年～2019年までの5年間の平均をいいます。

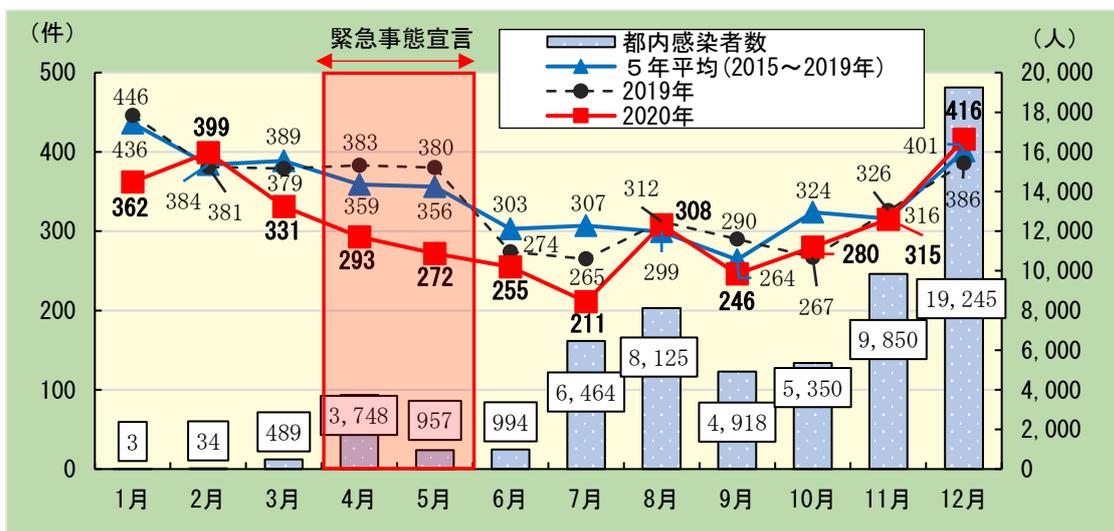


図 1 全火災の月別火災推移

表 2 主な出火原因（上位 5 位）

全火災		元年	2年	増減	住宅火災		元年	2年	増減
1位	放火・疑い	641	635	▼6	1位	ガスこんろ	321	384	63
2位	たばこ	689	506	▼183	2位	たばこ	279	201	▼78
3位	ガスこんろ	347	398	51	3位	放火・疑い	126	144	18
4位	大型ガスこんろ	110	74	▼36	4位	電気ストーブ	75	64	▼11
5位	電気ストーブ	85	68	▼17	5位	ロウソク	39	30	▼9

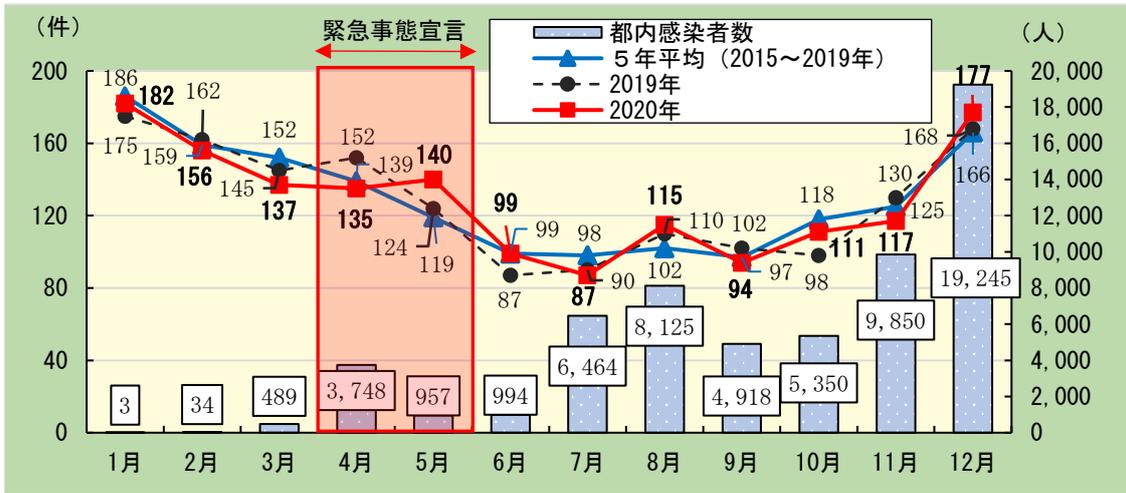


図2 住宅から出火した火災の推移

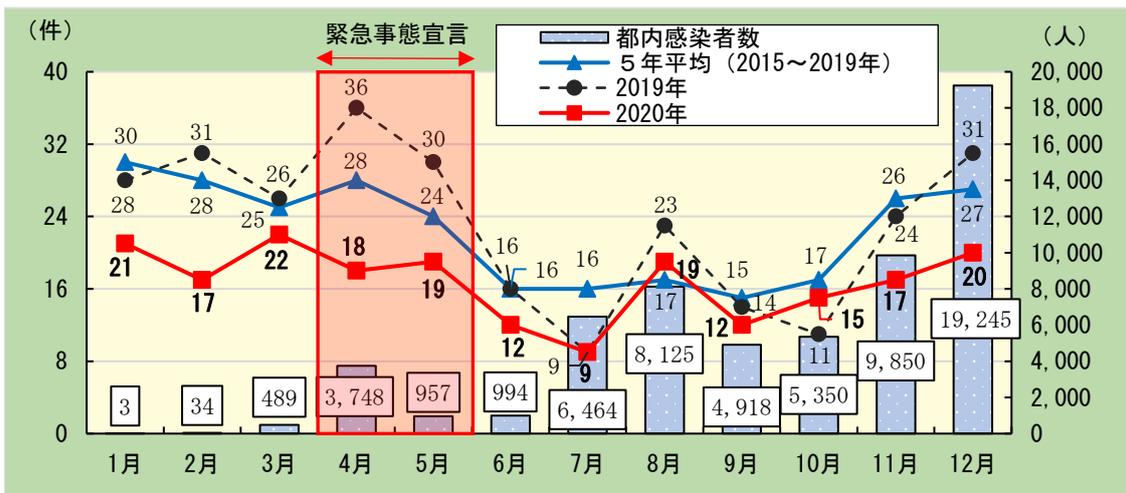


図3 住宅から出火したたばこ火災の推移

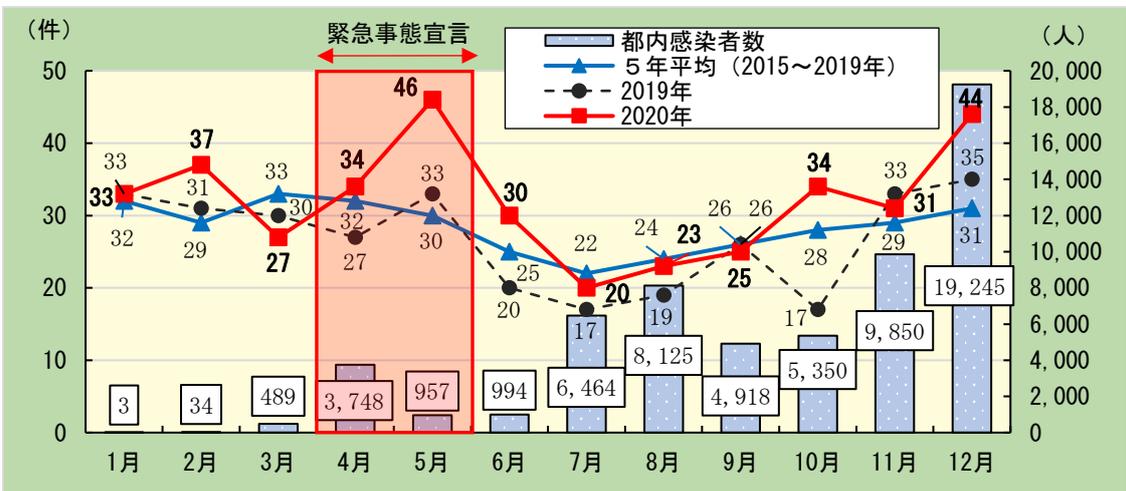


図4 住宅から出火したガスこんろ火災の推移

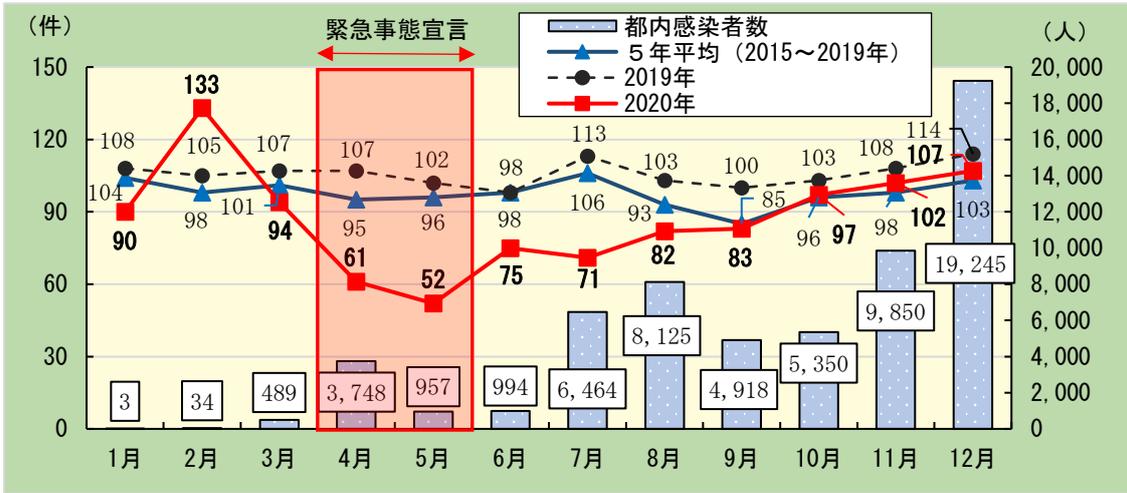


図5 事業所から出火した火災の推移

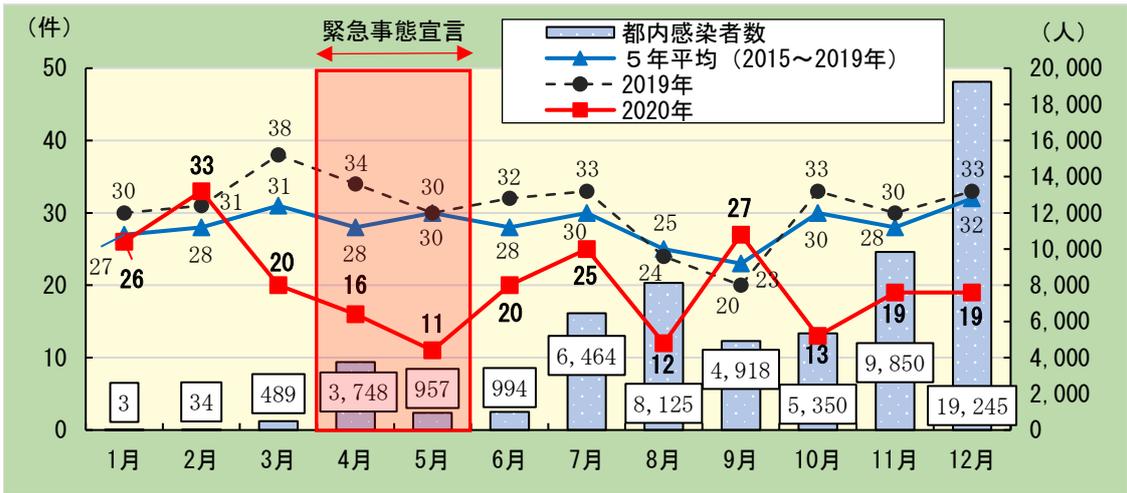


図6 飲食店から出火した火災の推移

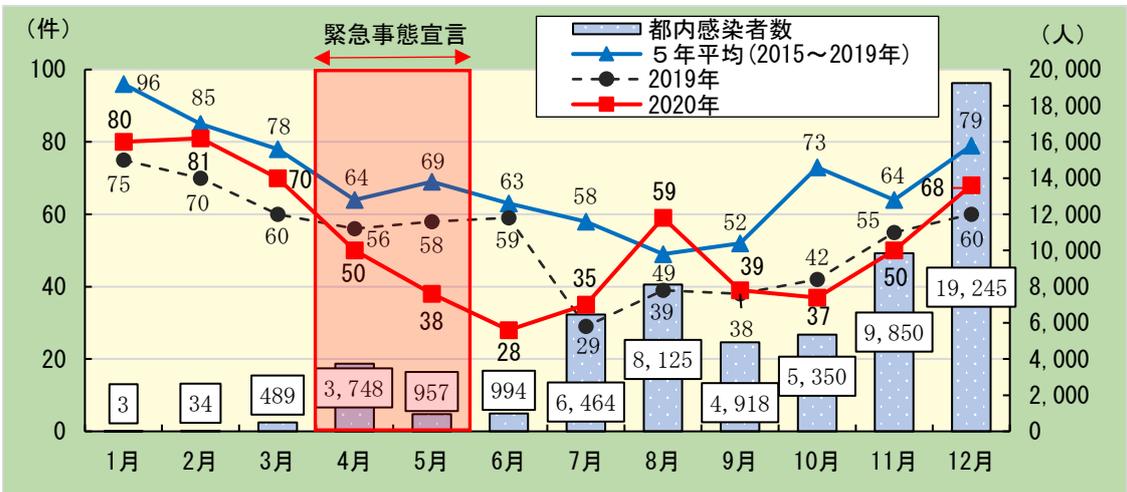


図7 放火火災の推移

【コロナ禍における特徴的な火災事例】

事例1 テレワーク中にガスコンロのスイッチを押し間違えて出火した火災

出火建物等：住宅（2階キッチン）

焼損程度：建物ぼや ガスコンロ1台、調理器具2

概要：この火災は、住宅2階のキッチンから出火したものです。

50歳代の男性がテレワーク中にガスコンロのスイッチを入れる際、誤ってグリル部分のスイッチを入れたことに気が付かなかったため、グリルが過熱して内部の油かすに着火したものです。

男性は、点火後にリビングでテレワークしていましたが、住宅用火災警報器が鳴りだしたため周囲を確認すると、天井に煙が漂っていて、グリル内部に炎が出ていました。

事例2 オンライン会議後にガスコンロを使用して出火した火災

出火建物等：共同住宅（2階キッチン）

焼損程度：建物ぼや キッチンペーパー1

概要：この火災は、共同住宅2階のキッチンから出火したものです。

20歳代の男性が自宅リビングでオンライン会議後、炭火で調理するため木炭をガスコンロの火で着火させる際、周囲に置いてあったキッチンペーパーに着火して出火したものです。

男性は、炭火の着火に時間がかかったため、ガスコンロの火を着けたままオンライン会議の報告書を作成しようとリビングへ移動していました。

事例3 テレワーク中にガスコンロを消し忘れて出火した火災

出火建物等：共同住宅（3階キッチン）

焼損程度：建物ぼや 食材若干、調理器具1

概要：この火災は、共同住宅3階のキッチンから出火したものです。

20歳代の男性が4階の自室でテレワーク中、ガスコンロで昼食のスープを温めなおし中に、その場を離れたため食材が過熱されて出火したものです。

男性は、3階キッチンから4階の自室で仕事を再開したため火災に気が付かず、近隣住民の通報で出場した消防隊により消火されました。